

研究 主題	自分の思いや考えを適切に表現することができる児童の育成 ー読み手を意識した，ICTを活用する「書くこと」の指導を通してー
----------	---

第4学年国語科学習指導案

指導月日 令和3年10月21日
所属校名 利府町立利府小学校
氏名 植田 光貴

1 単元名「自分のおすすめの世界を伝えよう」

2 単元の目標

- (1) 考えとそれを支える理由や事例，全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。〔知識及び技能〕(2)ア
- (2) 相手や目的を意識して，経験したことから書くことを選び，集めた材料を比較したり分類したりして，伝えたいことを明確にすることができる。〔思考力，判断力，表現力等〕B(1)ア
- (3) 自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫することができる。〔思考力，判断力，表現力等〕B(1)ウ
- (4) 言葉がもつよさに気付くとともに，幅広く読書をし，国語を大切にして，思いや考えを伝え合おうとする。〔学びに向かう力，人間性等〕

3 取り上げる言語活動と教材

言語活動 自分がお薦めしたい場所について，その魅力を伝えるリーフレットを作る。
(関連：〔思考力，判断力，表現力等〕B(2)ア)

教材 『ふるさとの食』を伝えよう（東京書籍 新しい国語四下）

4 指導に当たって

本単元は，小学校学習指導要領国語科の第3学年及び第4学年の内容〔思考力，判断力，表現力等〕の「B書くこと」の(1)ウ「自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして，書き表し方を工夫すること。」を重点指導事項として設定したものである。

本単元では，リーフレットを作る活動に取り組ませる。リーフレットは，複数の紙をとじて作られるパンフレットと違い，書くことができる情報量が限られている。限られた分量で相手や目的に応じて内容を選択させたり，自分の考えの説得力を高めるために理由を支える事例を挙げて書かせたりと，工夫をさせながら児童の書く力を伸ばすことが期待できると考える。

教科書では，地域の伝統的な料理や特産品の良さを伝える活動として「ふるさとの食」をテーマに取り上げているが，次の2点を踏まえ，本単元では「自分がお薦めしたい場所の魅力を伝える」とテーマを設定したい。まず，1つ目は「食」をテーマとするよりも「場所」をテーマとする方が，「見る」「遊ぶ」「買う」「学ぶ」など多様な理由を引き出せると考えたからである。2つ目は，「ふるさとの食」と題材を限定するより，選択肢が多い方が書き手の「自分の考えを伝えたい」という意欲を高め，思いをリーフレットに反映できると考えたからである。

5 児童の実態〔第4学年3組29名〕

これまでに児童は，授業実践Ⅰの単元「知らせたい出来事を新聞で伝えよう」で，見出しの言葉や記事の順序などを考えることを通して，知らせたいことを分かりやすく伝えるための文章構成の工夫

について学習してきた。児童の学習感想からは「いつ、どこで、誰が、どうした、を書くと分かりやすい文章になる」「読む人のために伝えたいことを、見出しの言葉で分かりやすくしている」など、書き方の工夫について考えたことが分かる記述が見られた。4月当初は「どのように書いていいかわからないことがある」と回答した児童が多く見られたが、現在に至るまでその数は5割から3割に減った。一方で、実際の学習場面では抽象的な文章になりがちであり、考えや理由だけでなく具体的な事例を挙げながら文章を書いている児童は少ない。

また、3年時の国語科の学習で全員が「パラリンピックの競技」を紹介するリーフレットを書く活動を行っていたが、観光施設等でリーフレットを見たことがある児童は半数ほどであり、実物に触れる経験は多くなかった。

6 指導観

本単元では、読み手を学級の友達とし、お薦めの場所の魅力を伝えるという目的でリーフレット作りに取り組ませたい。今回「お薦めの場所」として想定するのは、読み手である児童がイメージしやすくなるように、県内にある観光名所や施設（スポーツ、文化、公共、商業、娯楽など）としたい。

第1次では、教科書のリーフレット例や観光施設にある実物を提示して読み合い、内容や形式についてのイメージを持たせる。教科書の例は、二つ折りを広げた形式で掲載されているので、実際の形式に仕立てたものを見せ、その構成を捉えさせたい。また、内容も食について書かれたものであるため、教師が場所をテーマに作成した例を提示することで、完成までの見通しを持たせたい。

第2次では、経験なども踏まえさせながら、お薦めしたい場所とその理由をワークシートに記入させ、自分の考えを整理させる。お薦めしたい場所が決まったら、その場所の魅力が伝わるような情報についてガイドブックやインターネットなどで情報を集める。その際に、お薦めする理由を説明する事例に最適なものはどれか、考える時間を十分にとるようにする。下書きから清書までの段階では、ペアやグループで読み合う時間を設ける。児童には、自分の考えとその理由が伝わる事柄として、どのような事例を書いたのかについて、説明できるようにさせたい。

第3次では、完成したリーフレットを互いに読み合い、振り返りを行わせる。相手からフィードバックをもらうことで、分かりやすい文章の書き方ができたかを振り返らせ、自身の学習の到達度を確認できるようにさせたい。

7 研究主題との関連

研究主題「自分の思いや考えを適切に表現することができる児童の育成」に向け、次の2つの手立てを講じる。

(1) 読み手を意識した「書くこと」の指導の工夫

第2時でワークシートを活用し、自分がお薦めしたい場所とその理由を明確にさせる。第5時では、集めた情報からお薦めする理由を説明する事例としてふさわしいものを考える時間を設けることで、本文を書く際に事例を挙げて自分の考えを分かりやすく伝えることができるようにする。

また、第7時の下書きを読み合う場面では、始めに教師が作成したお薦めの場所とその理由を伝える際に、事例の挙げ方が不十分な例を提示することで、読み合う際の観点を児童に持たせる。読み手に的確に伝わる文章になっているかを考えやすくするために、学級の児童全員が行ったことのある場所をテーマにして提示をしたい。

(2) ICTを活用した「書くこと」の指導の工夫

作成した下書きやリーフレットをタブレット端末で撮影し、共有のクラウド上に保存させることで、学級で読み合うことができるようにする。そして、第7時や第9時ではコメント機能を活用し、読み手にとって行ってみたいと思えるような理由や事例になっているかについて、フィードバックがもらえるようにする。

今回のICT活用の利点として、出された意見を学級全体で共有できるようになることが挙げられ

る。また、待ち時間なく同時に作業ができるので、個人差にも対応しながら作業を進めることが可能となると考える。さらに、撮影をした下書きや修正後の文章を学習の記録として活用させることで、文章の変容の様子を児童自身が振り返ることができるようにし、学習の効果を高めていきたい。

8 単元の指導と評価の計画

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①考えとそれを支える理由や事例の関係について理解している。(2)ア)	①「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。 (B(1)ア) ②「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ)	①粘り強く、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、学習の見通しをもって、リーフレットを作ろうとしている。

(2) 単元の全体計画（9時間扱い 本時7／9）

次	時	主たる学習活動	評価規準・評価方法等
1	1	○学級の友達に、自分のお薦めの場所を伝えるリーフレットを作るという学習課題を確かめる。 ○教科書の例でリーフレットの構成を、観光施設にあるリーフレットの実物や教師が作成した例で、内容についてのイメージを持つ。 ・リーフレットの構成や書き表し方の工夫に気付く。	
2	2	○お薦めしたい場所を決め、その理由を書く。 ・ワークシートにまとめる。	[思考・判断・表現①] <u>ワークシート</u> ・相手や目的を意識して書くことを選び、伝えたいことを明確にしているかの確認
	3 ・ 4 5	○自分が経験したことや取材を通して、お薦めする場所の魅力を伝えるために必要な情報を集める。 (家庭学習と並行して行う。) ・観光パンフレットやインターネットを活用したり、家族に聞いたりして情報を集める。 ・取材メモにまとめる。 ○集めた事柄の中から、お薦めする理由を説明する事例としてふさわしいと思うものを考える。 ・取材メモを基に書く事柄を整理する。 ・自分の思いを踏まえ、どのような事例を選ぶとよいか考える。	
			[知識・技能①] <u>取材メモ</u> ・考えと理由や事例の関係について理解しているかの確認

本時	6	○リーフレットの下書きを作成する。 ・理由を表すときに使う言葉や、例を挙げるときに使う言葉を活用しながら、書き方を工夫する。 ・見出しの言葉について考える。	
	7	○友達と下書きを読み合う。 <u>ICTを活用した共有場面の設定</u> ・書き表し方について自分が工夫したことを友達に伝える。 ・考えとそれを支える理由や事例の関係が適切か、友達の下書きを観点に沿ってフィードバックをする。 ・伝え合いを基に下書きを修正する。 ※この段階で教師からのフィードバックを行う。	[思考・判断・表現②] <u>下書き</u> ・考えを分かりやすく伝えるために書き表し方を工夫しているかの確認
	8	○リーフレットを完成させる。 ・1学期の単元「知らせたい出来事を新聞で伝えよう」の学習を想起しながら読みやすい割り付けについて考え、清書をする。	[主体的に学習に取り組む態度] <u>リーフレット</u> ・修正をしながら、粘り強く書き表し方を工夫しようとしているかの確認
3	9	○完成したリーフレットを友達と読み合い、感想を伝え合う。 <u>ICTを活用した共有場面の設定</u> ○リーフレット作りを振り返り、学習を通して身に付けたことを確かめる。	

9 本時の計画

(1) 目標

自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にしながら、書き表し方を工夫することができる。

(2) 本時の指導に当たって

本時では、前時に作成した下書きを友達と読み合わせ、考えとそれを支える理由や事例の関係が適切かを確認させていく。まず、教師が作成した下書きの例を提示しながら、下書きを読み合う際の観点を確かめさせる。特にお勧めする場所とその理由がはっきりしているか、具体的な事例を挙げて書いているかを中心に自分の書き表し方を見直すことができるようにさせたい。次に、伝え合いでは、4人の班で共有のクラウド上に保存された下書きの画像を読み合わせる。そして、コメント機能を活用し、組み合わせを変えながらペアで意見交換をさせる。ここでは良い点だけでなく、改善した方がよい部分があれば、積極的に助言できるように声掛けをしたい。最後に、班での交流を基に下書きを個人で推敲させる。もし、修正点があれば、変容が分かるように色鉛筆で修正をさせる。

なお、次時は下書きを参考にしてリーフレットの清書に取り組ませる。

(3) 指導過程

段階	学習活動 ○主な発問・指示 ◆予想される児童の反応	形態	指導上の留意点	評価
導入 5分	1 本時のめあてを確かめる。 おすすめする場所のみよくが伝わるように書き方をくふうしよう。	一斉	◎お薦めの場所の魅力が伝わるように、友達との伝え合いを通して確かめていくことを伝える。	
展開 37分	2 文章を書くときの工夫について振り返る。 ○ 下書きを読み合う時の観点を確かめましょう。 読み合う際の観点 ・ お薦めする場所の良さとその理由が明確か。 ・ 伝えたいこととその理由が読み手に伝わる事例になっているか。 ・ 理由を表すときや、例を挙げるときに使う言葉を使っているか。 3 友達と下書きを読み合い、工夫したことについて、考えたことを伝え合う。 ○ 下書きの文章の中で、自分が工夫した部分を伝えましょう。 ◆ 魚市場をお薦めするために、旬の魚の味をその場で味わうことができるという良さを理由として書きました。 ◆ 県民の森をお薦めするために「自然と触れ合う活動ができる」という理由と「自然に囲まれたアスレチックコースがある」という事例を書いたところです。 ○ 友達の文章を読んで、工夫されている表現だと思ったところはどこですか。 ◆ 「秋に行くと紅葉が見られ、景色がきれい」、「落差５０メートル以上の滝が見ごたえあります」など分かりやすく書いてあり、実際に見てみたくなりました。 ◆ 「ながめのよい温泉に入れる」という良さを理由に挙げていたけれど、「そのあとに飲む牛乳がおいしい」と書いてあったので、ながめの良さをもっと伝わるように書くとういと思いました。	一斉 ペア	◎教師が作成した下書きの例(理由や事例の挙げ方が不十分なもの)を読み合い、観点を全体で確認し、友達の文章のどこに着目するとよいかについて確認させる。 ◎あらかじめ自分の下書きをタブレット端末で撮影、保存をさせ、共有できるようにしておく。 ◎初めに、ペアで読み合い、「自分が工夫したところは～です」と伝えさせる。 ◎次に、読み手はそれを受けて観点を基に感想や助言を伝える。アプリケーションのコメント機能使い、記入させる。 ◎同じ班の中で違うペアと同様に交流し、多くの意見をもらえるようにする。 ◎児童が観点到に沿って友達の文章を読むことができるように、適切な観点で読み合っているペアを紹介し、全体で共有できるようにする。	

	4 伝え合いを基に下書きを修正する。 ○ 友達からの助言を受けて、改めて自分の下書きを読み直し、必要に応じて修正をしてみましょう。 ◆ もっと、自然体験ができることに魅力を感じてもらえるような書き方はできないかな。 ◆ お薦めする理由と事例があまり合っていないところがあると言われたので、メモから事例をもう一度考えてみよう。	個人	◎入力された友達からの感想や助言を受けて、修正点がないか考えさせる。 ◎修正点があれば、その変容が分かるように色鉛筆で修正をさせる。	[思・判・表②] 理由や事例の関係を明確にし、お薦めする場所の良さが伝わるように書き表し方を工夫している。（下書き）
終末3分	5 本時の学習について振り返る。 ◆ 友達の意見を聞いて理由と事例の關係がずれていたことに気付けたので、清書の際に生かしたいです。 ◆ 自分の書き方で、友達にも十分に伝わっていたと思います。	一斉	◎本時のめあてを受け、「書き表し方の工夫ができたか」について、考えたことをノートに記入させる。	

(4) 本時の評価

評価の観点	評価規準	十分満足できる(A)	努力を要する児童(C)への手立て
思考・判断・表現	自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にしながら、書き表し方を工夫している。	友達からの感想や助言を基に、読み手がどのように感じるかを踏まえて、理由や事例の関係を明確にしながら、書き表し方を工夫している。	友達からの感想や助言を基に、自分の文章の良かったところや修正点を児童に気付かせ、教師が文例からより適切な表現の活用について助言をする。

(5) 準備物

①教師：ノートパソコン、タブレット端末

②児童：教科書、ノート、タブレット端末

(6) 板書計画

スクリーン

リーフレットの下書き例
アプリケーションの操作
方法を提示

感想

書き表し方のくふうができたか。

観点

・ おすすめる場所の良さとその理由が明確か。

・ 伝えたいこととその理由が読み手に伝わる事例になっているか。

・ 理由を表すときや、例を挙げるときに使う言葉を使っているか。

↓自分の文章を見直す

自分のおすすめの方法を伝えよう